

❀❀ 副校長通信 ❀❀

「家庭学習法」を連載いたします

子供たちの学力を向上させるために、本校では様々な手立てを考えています。
漢字の定着や計算ミスを減らすこと、ノートを丁寧に書くこと等、取組中です。

学校の学習と並行して家庭学習も力を入れていきたいと考えています。

学習の定着には、「学校」「家庭」「地域」が一体となることが大切です。

「学校」で新しい知識を学び、「家庭」で復習や応用を行い、「地域」の活動を通じて学びを実生活に活かすことで、子供たちはより深く理解し、自信を育んでいきます。

特に家庭学習は、学校で学んだ内容を確かな力へと変えるための重要なステップです。

例えば、野球の練習では、

「打ち方」を指導者のもとで学び、「素振り」を家で繰り返すことで技術を習得していきます。

学習も同様に、

「学校」で習得した知識を、「家庭」で復習し、自分のものにすることで学びの定着が図れます。

そこで、学校だよりにて「家庭学習法」の連載を開始します。

家庭での学習のコツや取り組み方を紹介し、ご家庭でも実践していただけるような内容をお届けします。

ぜひ参考にいただき、子供たちの学びをより充実したものにしていきたいと思います。

【副校長 難波】

水泳指導における検定の取り扱いについて

水泳指導の改善に取り組む中で、これまで実施してきました、いわゆる泳力検定の実施について見直しました。

1 水泳指導の本質を大切にする

現在の学校教育においては、「知識・技能」だけでなく、「主体的に学ぶ力」や「思考力・判断力・表現力」も重要視しています。水泳指導の本来の目的である「水に親しみ、安全に楽しむ力」「自己の課題に向き合い努力する姿勢」を十分に育むことが重要であると判断しました。

2 充実した練習時間を確保する

水泳指導は夏季の限られた時間の中で行われます。指導時間は、全学年同様に約 10 時間です。泳力検定には 1～2 時間程度の時間が必要です。今年度からは、その時間で十分な泳ぎの習得ができるよう改善し、子供たちができる限り多く水の中で練習できる環境を確保したいと考えております。

3 熱中症のリスクを軽減する

検定の際には、プールサイドで待機し、友達の泳ぎを見守る時間が多くなります。特に近年、7 月になりましたらかなり高温の時期になってまいります。長時間プールサイドにいて熱中症のリスクが高まることが懸念されます。そこで、できる限り水中での活動を増やし、安全に水泳指導を進めることが必要であると判断いたしました。

4 一人一人の成長を大切にする

泳力検定では、一定の基準に沿った評価を行う取り組みが求められますが、子供たちの成長は個々に異なります。「去年よりも少し長く泳げた」「水に対する恐怖心が減った」など、子供たちの努力や達成感を大切にしたいと考えています。一律の検定ではなく、一人一人の目標を大切にしながら水泳指導を行っていきます。

水泳指導は「泳ぐ楽しさ」と「安全に水と関わる力」を伸ばすことが大切です。個々の目標に合わせたサポートを行い、子供たちが自信をもって安全に水と関われるような指導を実施してまいります。

保護者の皆様には、引き続きお子様が水泳を楽しみながら成長できるよう、温かく見守っていただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。